

RESCUE VOICE II

～的確な状況判断が生んだ救助活動～ (No.5)

警防課(救助)



▼ 事案概要

本事案は、新築工事現場において男性1名が作業用足場(地上から25m)から誤って転落し、男性の臀部及び腰部の2か所に新築工事現場の基礎部分から突き出ているアンカーボルトが突き刺さった事案である。通報段階では、足場から転落した救急単独事案であったが、救急隊到着後、救助隊によるアンカーボルトの切断が必要なため救助事案に切り替えたものである。

▼ 覚知日時

平成29年8月28日(月)

救急指令	10時44分
N救急隊到着	10時44分
救助指令	10時50分
1救急隊到着	10時52分
医師到着	10時55分
医師到着	11時17分
救出完了時刻	11時50分
所要時間	55分
負傷者	1名(41歳男性 臀部筋挫傷・第3腰椎破裂骨折・腰部静脈損傷・馬尾損傷)

▼ 出場途上

「足場から転落し、腰部にアンカー

ボルトが刺さっている。アンカーボルト切断の要あり。本件先着救急隊からの増強要請」との指令を受け、出場中の1救急隊の車内ではS隊長より「アンカーボルトを切断するためのクリッパー(鉄線カッター)、充電式切断機、レスキューツール(大型油圧器具)を搬送。要救助者の状況により資器材の選定を実施する」との指示を受け、要救助者のあらゆる状況をイメージしながら災害現場に向かった。

▼ 現場到着

現場到着すると、S隊長はすぐさま要救助者のもとに向かい、状況を確認するとともにN救急隊と情報の共有を図った。要救助者は新築工事現場の基礎部分に仰臥位で倒れており、意識はあるが少しぼんやりとしており、アンカーボルトの刺さっている



る位置は体に隠れて視認する事ができない。救急隊長から「救助隊を増強要請した時に医師は要請済みです」との報告を受け、救助隊長Sは過去体験した現場のことが頭をよぎった。

「プレス機に手指が挟まれた事案で、医師到着後に麻酔処置を施し要救助者の痛みを軽減させてから救出したことがある」

隊員に対し搬送してきた充電式切断機及びレスキューツールの設定準備を指示するとともに、救急隊長と救出方法を協議し、要救助者の観察結果から緊急性は低いと判断。救出活動時の大出血と切断時の痛みの軽減を考慮し、医師到着後の救出活動開始を決定した。

医師到着までの間、救急隊は要救助者への呼びかけ、観察、バイタル測定及び酸素投与を継続した。

救助隊は資器材の選定及びアンカーボルトの切断箇所を確認するため、要救助者を徒手で持ち上げアンカーボルトを確認したところ、体と基礎部分の間でアンカーボルトが少し見える程度であった。S隊長は間隙が少ししかなく、要救助者が振動による痛みを訴えていたため、資器材使用による熱、振動、衝撃による患部への影響を考慮してクリッパー